

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1197

令和7年12月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



スズカケノキ (久宝寺公園・大阪市内)

トピックス:「水都おおさか森林(もり)の市2025」開催報告(技術普及課)

ニュース:和歌山森林管理署、奈良森林管理事務所、山口森林管理事務所

花草木:ヤマハギ

我が署のスタッフ:広島森林管理署

森林事務所等紹介:鳥取森林事務所(鳥取森林管理署)

国有林最前線:岡山森林管理署

「水都おおさか森林（もり）の市 2025」開催報告

【技術普及課】

令和7年10月26日（日）、大阪市北区の毛馬桜之宮公園および桜ノ宮合同庁舎において、「水都おおさか森林（もり）の市 2025」を開催しました。秋の深まりを感じる季節の中、森林の恵みや木の魅力にふれられる本イベントには、地域内外から多くの方が来場され、にぎやかな一日となりました。



オープニングセレモニー

クラフト、クリスマスリース作りなど、子供から大人まで楽しめるメニューが充実しました。苔テラリウム作りのコーナーでは、「自分だけの森を作ろう」と多くの参加者がじっくりと作品を仕上げ、完成品を嬉しそうに持ち帰

当日は数日前の予報で土砂降りの雨が心配されましたが、皆さまの願いが届いたのか、時折小雨はあったものの、無事に開催することができました。会場には、近畿各府県はもちろん、関東や中国地方からも41団体が出展し、森林・林業・木材産業に関わる多様なブースが並び、それぞれに人が集まり、熱心に話を聞いたり体験したりする姿が見られました。

人気の体験ブースでは、丸太切りや木工



バイオカーボンになわ



丸太切り



クイズラリー・アンケート

る姿がとても印象的でした。また、会場内で実施したクイズラリーには長い行列ができ、先着500名の木製品プレゼントを手にした参加者からは笑顔がこぼれました。



キッズスペース



天満音楽祭



鳥取県 八頭町

飲食ブースでは、地域食材を使ったキッチンカーのほか、地ビールの販売、イノシシ肉を使ったジビエ料理、旬の果物や加工品などが販売され、秋の味覚を楽しむ来場者で終日賑わいました。また、天満音楽祭とのコラボステー

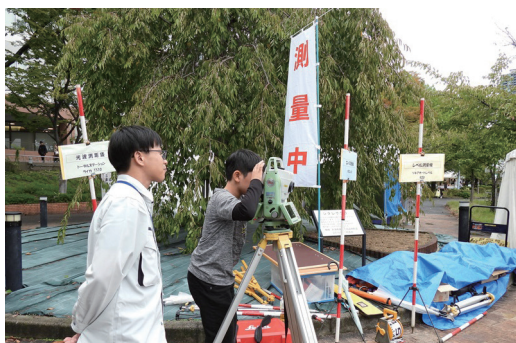


会場の雰囲気



ジも開催され、生演奏が会場全体を柔らかく包み込み、森林と人をつなぐイベントの雰囲気を大いに盛り上げました。

さらに今年は、来場者の注目を大きく集めた特別なコラボがありました。それが「ぐんまちゃん」と「しまねっこ」の共演です。人気キャラクターがコラボする光景に、会場中が笑顔に包まれ、記念撮影を楽しむ長い列ができました。



森林技術コンサルタンツ協議会



丸太切りピットリ賞 1



環境省

キャラクターたちは、来場者に手を振ったり、子どもたちと触れ合ったりと、会場の盛り上げ役として大活躍。森林の市ならではの温かい交流が生まれ大盛況となりました。



和歌山森林管理署（苔テラリウム作り）



京都・森と住まい百年の会



千早赤阪村

森林の市は、単に森林や木材の魅力を紹介するだけではなく、森林が水や暮らしを支えてきた歴史、林業の役割、農山村地域の現状などを知るきっかけとなることを目指しています。今年も出展者と来場者の間で活発な交流が生まれ、森林・林業への理解を深める貴重な場となりました。

最後に、ご来場いただいた皆さま、運営にご協力いただいた関係団体およびスタッフの皆さまに心より感謝申し上げます。皆さまの温かいご支援のおかげで、「水都おおさか森林（もり）の市 2025」を無事に終えることができました。今後も、森林資源を未来へ引き継ぐための取組を進めるとともに、都市と森林をつなぐ交流の輪をより一層広げてまいります。

紀北森林計画策定にかかる地域懇談会と現地見学会を開催しました。

【和歌山森林管理署】

和歌山森林管理署では、令和7年10月7日（火）、「令和8年度予定の紀北森林計画策定にかかる地域懇談会と現地見学会」を開催しました。

地域懇談会と現地見学会は、それぞれ高野町中央公民館（和歌山県伊都郡高野町）及び高野山^{こうやさん}国有林において実施し、地域懇談会では森林と林業の現状、地域管理経営計画の概要、紀北森林計画区における国有林の特徴的な取組、次期計画の検討方向について説明を行い、現地見学会では、高野山古事の森、高野山国有林森林整備事業について現地を見学いただいた後に説明しました。



現地見学会・森林整備事業（高野山国有林）

参加いただいた方々からは、「紀泉高原の遊歩道について、維持管理はどのようにしているのか」「県内産の少花粉スギの生産量が少ないので、苗木を植える予定が決まったら関係機関へ周知し、確実に県内産の少花粉スギ苗木を確保してほしい」「主要事業の現行計画量と事業実績について差があるが、今後の課題と対策はどのよ



地域懇談会の様子

うに考えているのか」などの意見等が出されました。

和歌山森林管理署では、参加者の皆様からいただいたご意見等を参考に、令和8年度の紀北森林計画策定に向け取り組んでまいります。

高取山クリーン作戦を実施しました。

【奈良森林管理事務所】

奈良森林管理事務所では、令和7年11月11日（火）、奈良県高取町に所在する県道明日香清水谷線沿いの^{たかとりやま}高取山国有林において、奈良県及び高取町と合同でクリーン作戦を実施しました。

高取山国有林内には日本三大山城の一つである高取城跡があり、日中は多くの観光客や地元住民が散策を楽しむ場となっている一方、夜間は交通量が少ないことから不法投棄が多く見受けられています。



不法投棄の状況



作業開始前の打合せ

今回のクリーン作戦は、奈良県中和土木事務所や高取町の職員と当所職員の総勢22名が林内に入り、空き缶・空きビンのほか、タイヤ、冷蔵庫、テレビ、マットレスなど可燃物約200kg、不燃物約400kg（タイヤ、冷蔵庫、テレビは含まず）を引き上げ、高取町環境事務所に回収していただきました。

なお、今回実施した箇所は高取山国有林の一部であり、まだ多くの不法投棄ごみが残っています。



作業の様子



引き上げたごみの一部

奈良森林管理事務所では、今後も関係機関と連携し景観の保全や生物多様性の維持に向けて、不法投棄対策を継続してまいります。

幼稚園児にクリスマスリースをプレゼントしました。

【山口森林管理事務所】

冬の訪れを感じる今日この頃、心が温まる出来事がありました。

令和7年11月19日（水）、山口森林管理事務所にほど近い明星幼稚園から、収穫感謝祭の行事として、年少組のかわいい園児の皆さんが来訪されました。



かわいい訪問者

園児のみなさんよ、お歌のプレゼント、メッセージカード、野菜や果物などを頂きました。



園児のみなさんから頂いた野菜など

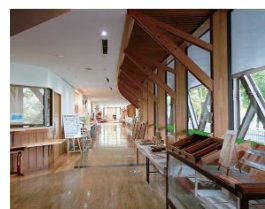


お礼として山口森林管理事務所から、森林の恵みを使った職員手作りのクリスマスリースをプレゼントしたところ、園児達は大喜びしてくれました。

山口森林管理事務所では、これからも、このような機会を通じて、地域とのふれあいに努めてまいります。



森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○現在の展示は、令和7年12月3日（火）～12月26日（金）、大阪府千早赤阪村、河内長野市、河南町が行っています。

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【技術普及課】

○令和7年度森林・林業交流研究発表会を開催します。

【開催日】 令和8年2月3日（火）～4日（水）

【開催場所】 近畿中国森林管理局 4階大会議室
詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



【箕面森林ふれあい推進センター】

○こだま通信 131号を発行しました。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/booklet/kodamatushin.html



【企画調整課】

○近畿中国森林管理局管内の11森林管理署・3森林管理事務所において、国有林の森林情報を地図や航空写真を背景に閲覧できる「国有林ビューア」の公開をしています。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/NF_viewer/index.html



【ヤマハギ】

ヤマハギ（山萩、学名：Lespedeza bicolor）は、東アジアが原産のマメ科ハギ属の顕花植物※¹です。

秋の七草のハギは本種「ヤマハギ」を指します。枝がまっすぐ伸びほとんど垂れ下らない小低木で、山野にふつうに見られます。日本での利用は、観賞用に庭木や公園樹としてよく植えられ、茶花※²として好まれます。マメ科で栄養価が高く、放牧で食べられてもすぐに芽を出して再生力が強いことから、昔は家畜の飼料としても用いられたようです。

ハギには「萩」の漢字が当てられており、これは日本で作られた独自の漢字です。また、古株からよく芽を出すことからハギの名には「生え芽」の意味があります。

※1：顕花植物とは、「花を咲かせて種子を作る植物」のことを指します。

※2：茶花（ちゃばな）とは、茶道の席において飾られる花の総称です。

ヤマハギの花言葉 引っ込み思案、思慮深い、気づかい、思い出、信任



大阪市内の公園で咲いていたヤマハギの花

我が署のスタッフ 広島森林管理署

朝田 清子（あさだ さやこ）（平成28年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

広島森林管理署三原森林事務所で森林官業務を行っています。三原森林事務所は、広島県三原市、竹原市、東広島市の中北部及び広島市の一部を管轄区域としています。業務内容は国有林の巡視や調査、間伐などの事業の監督、地元自治体や住民との連絡調整など多岐に渡ります。

【職場の雰囲気は？】

三原森林事務所で常時勤務しているのは私だけです。週一日程度で非常勤職員が勤務するほか、必要に応じて広島森林管理署の担当者と打ち合わせながら仕事をしています。また、収穫調査等で多くの人手が必要となるときには署から応援に来てくれるなど協力しながら業務を行っています。

【林野庁の魅力は？】

転勤があるため、様々な土地に住むことができ、その土地の自然に触れたり美味しいものを食べたりと「地方」を満喫することができます。また、地域によって気候風土や植生が異なるため、現場を歩きながら、その土地土地に合わせた森づくりに関わることができるのも大きな魅力です。



事務所で撮影

森林事務所等紹介

鳥取森林事務所（鳥取森林管理署）

首席森林官 川村 直樹（かわむら なおき）

鳥取森林事務所では、鳥取・^{さじ}佐治担当区内の国有林約 5,750ha、官行造林約 320ha を管理しています。木材生産を始め森林整備主体の奥山から利用者の多い都市近郊林、国立公園でもある鳥取砂丘に隣接する海岸林まで、上流から下流にわたり多様性に富んだ国有林が存在しています。

当管内の特徴的な取り組みとして、鳥取市市街地の東側にあたる都市近郊林の旧城山^{きゅうしやうざん}国有林で修景伐採事業を実施しています。この国有林の山頂には豊臣秀吉が鳥取城を攻めた時の本陣跡があり、鳥取市の背景林としても地域の方に親しまれていることから、自然休養林に指定してご利用いただいています。

事業地は急斜面で住宅地に隣接する場所での作業となることに加え、花崗岩主体の崩れやすい地質に生えた大径木もあり、伐採から引き上げ作業には細心の注意を払って実行しています。



鳥取自然休養林（旧城山国有林）

また、残した立木が持つ土壌を保持する役割についても、地域の方に説明し、理解と協力をいただけるよう配慮しています。

この他、今年度の主な森林整備事業として、鍋割^{なべわり}国有林、鷺峰山^{じゅうぼうざん}国有林で保育間伐を実施しています。国有林の名称にもなっている鷺峰山は標高 921 m、鳥取県西部に位置する大山^{だいせん}と同じ独立峰ですが、こちらは山頂まで高木が存在するので、人工林と天然林が混交した美しい風景が見られます。鷺峰山と大山はできた時代は異なりますが、どちらの山も地球のプレート活動によって形作られた経緯があり、位置は離れていても「山はつながっている」と強く感じています。



鷺峰山林道から望む鷺峰山山頂（鷺峰山国有林）

山と山、人と山のつながりを常に感じながら国有林の管理に努めてまいります。

シリーズ『国有林 最前線！』

冬下刈の取り組みについて ～成長期前後における植栽木の成長量等の検証～

岡山森林管理署

1 課題を取り上げた背景

下刈作業の労働負担の軽減や労働安全性の向上を図る観点から、岡山森林管理署では7月～8月を避けて下刈作業を実施する冬下刈を試行しています（写真）。

事業体への聞き取り調査を行ったところ、「身体への負担が軽く、作業効率が上がる」など評価する意見もありましたが、「植栽木が雑草木に被圧され枯死するのではないか」など疑問視する意見もありました。

そのため、冬下刈実施区域における植栽木の樹高成長量や枯死の有無を調査することにより、雑草木が繁茂する夏季以外に下刈を実施した場合でも、植栽木は枯死せず成長するのか検証することとし、冬下刈実施前の令和5年と冬下刈実施後の令和6年の共に5月～11月の期間において植栽木の樹高調査と定点撮影を1カ月毎に行いました。



冬下刈作業の様子

2 実行結果と考察

調査結果から、冬下刈でも植栽木は枯死することなく成長することがわかりました。

冬下刈実施後は雑草木に被圧される夏までの間に一定の成長が確認できたことから、植栽木は枯死せず成長するのかという疑問を解消する結果が得られました。

	夏下刈	冬下刈
メリット	・最適な成長の促進 ・下刈後翌年の雑草木の再生力低下を促す	・労働安全性の向上 ・身体への負担軽減 ・誤伐のリスク低下
デメリット	・酷暑による命の危険 ・危険生物との遭遇 ・林業従事者の離職	・夏下刈りに比べ成長が遅れる可能性

（表）夏下刈・冬下刈のメリットとデメリット

これらのことから、「労働安全性」や「植栽木の成長」など、どの視点に重きを置くのかにより下刈時期を夏季に限定せず、冬下刈を下刈方法のひとつの選択肢として考えてよいのではないかと考えています。